かめおか
乳幼児教育
センター

９月１４日（月）
「絵本・パネルシアターで
子どもたちにお話の世界をプレゼント」

講師　敬愛短期大学　准教授
パネルシアター作家　酒井基宏　先生



絵本・パネルシアターで子どもたちにお話の世界をプレゼント
―保育者の感性と児童文化財―

子どもたちにとって「遊び」とはなんでしょうか。それは、頭の中にイメージをつくり、思い思いに表現することだと思います。日々の遊びの中で、どんな子どもを育てたいと考えていますか。「遊ぶことで心が豊かになる」とは耳にしますが、実際の保育の中で、「どのような関わりや環境が子どもの心の育ちにつながっているのだろう？」と具体的に考えることは、なかなか難しかったりします。そうした保育を考える手助けとなり、子どもたちに柔らかな刺激を与えてくれるもののーつが「児童文化財」です。今日は、「絵本」や「パネルシアター」を通して、皆さん自身が「遊ぶ」体験から、子どもの遊びについて考えていただけたらと思います。

「保育者が楽しければ子どもは楽しい」。これは、保育士時代に私が大切にしてきた言葉です。子どもたちと関わる手段・表現のーつとして、絵本、そしてパネルシアターを紹介していきます。難しく考えず、皆さんー人ひとりの感性を大切にしながら、子どもとー緒につくる遊びとして楽しんでください。



1．児童文化財と子どもの「遊び」 ―心を耕すということ―
2．保育者自身の遊び心
3．「大人が見せる」から「子どもとつくる・あそぶ」パネルシアターへ

保育者自身のワクワク・ドキドキと当事者意識を持って楽しむ姿が、子どもたちの自発性や探求心を育みます。







［感想］

研修を通して、絵本や手遊び、パネルシアターといった児童文化財は、単に子どもたちを静かにさせたり惹きつけたりするための「手段」ではなく、大人がワクワクしながら子どもたちと一緒に心から楽しむ表現の一つなのだと改めて実感しました。

パネルシアターの片付けすら遊びに変えてしまうような柔軟なアイデアや、日常の環境に自然に溶け込む使い方のヒントをたくさんいただき、「もっと身近に、気軽に楽しんでいいんだ！」と視野が広がりました。

「大人が常識にとらわれず、感性を大切に楽しむこと」「子どもたちと共に遊びながら表現すること」の大切さを胸に、日々の保育や活動の中に温かいつながりとワクワクを取り入れていきたいと思います。

★かめおか乳幼児教育センター　Tel:0771-21-2102　Mail：nyuuyouji@city.kameoka.lg.jp